新潟医療センターニュース

第 14 号

発行
ＪＡ新潟厚生連
新潟医療センター

発行責任者
田　中　憲　一

本年三月より当院消化器病センターに超音波内視鏡診断機器が導入されます。その意義について簡単に解説したいと思います。

医療講話

消化器病センター
青柳豊センター長

超音波内視鏡検査機器による消化器診断・治療

超音波内視鏡を導入

現在内視鏡検査の進歩により早期の消化器癌の診断が出来るようになりそれらの癌については内視鏡治療が可能となっています。しかしながら通常内視鏡観察のみでは癌がどこまで進んでいるかを客観的に評価することが困難な例にも遭遇します。そしてこの評価は外科治療を選択するか内視鏡治療で行うかの大きな分かれ道となります。

一般に消化器癌は消化管内面にある粘膜上皮細胞から発生し進行するにつれて粘膜下層筋層へと深く浸潤していきます。内視鏡検査では粘膜病変を表面より観察することで癌がどこまで進んでいるかを予測する訳ですがこれを〝深達度診断〟と言います。胃癌を例にとると深達度が粘膜下層の表層までにとどまっている場合リンパ節転移はまれで多くの場合内視鏡による根治的手術すなわち粘膜下層剥離術が可能となっています。

検査中の高橋澄雄先生

ここで問題となることは癌が粘膜下層から筋層に進んでいくに従ってリンパ節に転移する確率が高くなり内視鏡治療の適応から外れることになります。いかに正確に癌の深達度診断が出来るか否かが重要となってくるわけです。そこで登場するのが超音波内視鏡装置です。

腹部超音波検査は検診などでも広く行われている検査法です。超音波プローブ（探触子）をお腹の表面に当てそこから超音波を発しその跳ね返った音波をプローブで受けて液晶画面に写し出し診断に役立てます。超音波内視鏡とはファイバースコープの先端にこの超音波を発するプローブを付けたもので消化管の内側からエコー検査を行う目的の機器です。この装置を用いることにより粘膜表面から発生した癌がどこまで進んでいるかの深達度やリンパ節転移などを客観的な画像により正確に診断出来る事になります。消化器癌中でも食道癌の深達度診断や局所リンパ節腫大の診断に威力を発揮します。

その他の用途として消化管粘膜の下に出来る粘膜下腫瘍の質的診断と生検に用いる事が出来ます。この腫瘍は通常の癌と異なり粘膜を被った病変のため表面より生検をしても腫瘍本体に届くことが困難です。このような際に超音波内視鏡装置を用いて内部構造を客観的に画像化しさらにエコー像を観察しながら本装置の先端から出した細い針で吸引生検を確実に行う事が出来ます。この手技を超音波内視鏡下穿刺生検といい粘膜下腫瘍のみならず消化管に近接したリンパ節や膵臓腫瘍などの診断にも用いる事が出来ます。さらに本装置は超音波内視鏡下瘻孔形成術など閉塞性黄疸に対するドレーナージ治療などにも応用されています。

今後この設備の導入によりより正確な消化器領域の診断そして治療への応用が期待されます

消化器病センター　青柳　豊

外来点滴治療室が移転しました

より安全、安心して点滴治療が受けられます

平成二十八年一月五日よりC病棟六階にありました点滴治療室が、一階歯科入口の場所に移動しました。

ベッドも今まで四ベッドでしたが二床増えて六ベッドになりました。

患者様より、「近くて良くなった。六階まで上がらなくていい」「レストランが近い」「トイレがきれい」「会計が近くて便利」などの意見をもらいましたが、反面「外の景色を楽しむ事が出来なくなった。壁しか見えない」との声もいただきました。

看護師は「六階まで上がらなくていい。今まで二つの部屋になっていて、行き来に苦労したが、ワンフロアで作業しやすくなった。」「患者さんの具合が悪くなっても、直ぐ医師が駆けつけられる。」「以前は患者さんが外来で採血などをおこない点滴治療室に案内したが、点滴治療室だけで、全て出来る様になったので、患者様にかける負担が少ない。」

医師からは、「近くて良い、何かあってもすぐ駆けつけられる」などの意見をもらいました。

ちょっと景色が悪くなりましたが、その分安全安心して点滴治療を受けて頂けるようこれからも、頑張ります。

外来看護師長　今井　延枝

（裏面もご覧ください）

病院探索

院内レストランの紹介

病院受付窓口となりに、院内レストランがあります。

患者様やご家族、また病院職員にも毎日利用して頂いております。メニューはいろいろ取り揃えておりますが、その中でも、日替わり定食は、病院レストランということもあり、糖尿病食（六百キロカロリー・塩分三ｇ未満）に準じて、主食・主菜・副菜が揃っているバランスのとれた健康食となっております。一日三十食の限定ですが、毎日の食生活の参考になれば幸いです。その他にも定食、丼物、麺類、カレーライスなど人気メニューもたくさんご用意しております。

またウインドウには、メニューとともにエネルギー量と塩分の表示もしてありますので、ご活用ください。

広い空間の中で、静かに音楽が流れております。

穏やかなひとときをお過ごしください。

管理栄養士
小坂　浩子

日替わり定食は1日30食限定

営業時間
月～金　　９時～17時30分
土、日、祭日　９時～15時

新人看護師研修を振り返って

看護部・新人指導を終えて

昨年より主任として配属され、一年が過ぎようとしています。看護部の主任の集まりである主任会で昨年より新人看護師の指導、研修を担当しています。そして新人教育担当グループの一人として関わっています。具体的には基礎看護技術や振り返りなど研修を行ってきました。終了後には反省点、改善点を話し合い次回の研修、指導に生かせるようにしています。来年度は新しい研修項目、日程も追加予定で新人看護師が集合研修を通して日々の業務になれ、基礎技術、態度や姿勢が身につくよう計画的に関わっています。指導する、育てるということはとても難しいです。しかし一年経った新人の姿をみると入職時の不安から看護師としての自信に変わり、成長を感じます。昔を振り返り新鮮な気持ちになり、自分もまた研修や新人を通して学ぶ場であると感じます。今後も新人を指導する立場として新人と共により良い看護が皆さまに提供できるよう努めて参りたいと思います。

Ａ３病棟
清野　直子

一年間で感じた成長と課題

色々悩むことが多く、とても長く感じた一年でした。最初は病棟の仕事に慣れなかったりラウンドや記録に時間がかかったりして苦労しました。また体調を崩したり、気分が落ち込んだりすることもありました。そんな時、先輩や同期の看護師に相談に乗ってもらったり、自分で改善点を模索したりして働いていく内に仕事は段々慣れていきました。時には患者さんの温かい声かけで私自身が元気づけられることもありました。一年間乗り越えられたのは周囲のスタッフや患者さんに助けていただいたおかげです。本当にありがとうございました。この一年で色々成長できた反面、今後の課題もみえてきたので、二年目は新しい自分の課題にむかって取り組んでいきたいと思います。

Ｃ４病棟
原　直樹

研修で得た仕事へのやりがい

病棟勤務が始まってから今日までの自分の一年間を振り返ってみて最初に思うことは、自分の知識・技術の未熟さから日々勉強に追われ精神的・体力的にもとても辛かったな、ということです。けれど、同じ病棟に新人として一緒に入った同期と、その日の勤務中で学んだことを共有し合い、分からなかったこと・疑問などはプリセプターの先輩などに聞くなどして勉強していったことで、そこから少しずつ自分の知識・技術に結びつき、一人でできることが徐々に増えたことが嬉しく、面白くも感じられるようになりました。この一年間で周りの人に助けられ今の状態まで成長することが出来たと思います。しかし、まだまだやったことのない技術や扱ったことのないものもたくさんあるので二年目も分からなかったことなどをそのままにせず、自分のものにできるよう進んで経験し、勉強していきたいです。

Ｃ３病棟
伊藤　希実